

令和7年度 授業改善推進プラン（6年）

台東区立金曾木小学校

教科	観点 課題と思われる観点に○	児童の実態及び課題	授業改善に向けての具体的な方策	方策に対する検証
国語	知識及び技能 言語 言葉	・児童は言葉に対して興味関心が高く、新しい単語に出会うと積極的に辞書を引く習慣を持っている。しかし、話す・聞く活動において、要点を的確に捉えたり、相手にわかりやすく伝えたりすることに課題が見られる。このため、児童のコミュニケーション能力の向上が課題である。	・辞書の活用については、単なる調べ学習にとどまらず、「逆引き辞書」の活用など、言葉を予測しながら調べる方法を導入し、語彙力を高める。 ・話す・聞く力の育成のため、話す内容のポイントやルールを明確に示し、それを確認できるチェックシートを用いて学びを可視化する。さらに、ペアや小グループでの発表の機会を増やし、児童が自信を持って表現できる場を設ける。	・ワークテストにおいて、知識・技能の正答率が90%以上を8割以上の児童が達成する。 ・話す・聞く活動に関しては、チェックシートを活用して児童同士でフィードバックを行い、ルールやポイントを適切に取り入れられているかを評価する。
	思考力・判断力・表現力 話・聞く 書く 読む			
	学びに向かう力、人間性等			
社会	知識及び技能	・多くの資料の中から、必要な情報を読み取ったり、どの資料を活用すればよいか分からなくなったりする児童がいる。	・めあてや単元の学習問題、資料を確認し、学習の流れやポイントを確認後、自力解決の時間を25分程度設定する。 ・児童の実態に合わせた動画や追加の資料を用い、情報の活用ができるようにする。	・ワークテストで知識・技能の正答率90%以上を8割の児童が達成する。 ・単元末ワークテストで思考・判断・表現の正答率90%以上を7割の児童が達成する。
	思考力・判断力・表現力			
	学びに向かう力、人間性等			
算数	知識及び技能 数・計 図形 変・関 デ活	・問題に対して、解答のみを求める、計算や考え方の過程を重視しない児童がいる。 ・分数や小数の加減乗除の計算を正確にできるように、既習事項を振り返る必要性がある。	・児童の考え方を集団で共有する時間を十分に設ける。また、式だけではなく、数直線や図、表などを取り入れた児童を意図的に取り上げ、考えを深められるようにする。 ・月に一度の既習事項確認テストを行ったり、週1回の朝学習で東京ベーシックドリル、eライブラリを活用したりして、既習の定着を図る。	・計算過程や公式について言葉や図で説明できる児童が8割以上を目指す。 ・単元末ワークテストで正答率90%以上を8割の児童が達成する。
	思考力・判断力・表現力 数・計 図形 変・関 デ活	・コンパスや分度器の正しい使い方や図形の特徴が定着しておらず、既習の図形を正しくかくことが難しい。		
	学びに向かう力、人間性等			
理科	知識及び技能	・既習事項が定着していない児童がいる。 ・既習事項と結び付けて、予想を考えたり、実現性の高い実験計画や結果から的確に考察したりすることができない児童がいる。	・事象提示はなるべく具体物を用意する。また、理科の見方・考え方を働かせることができるように（・問題→予想→実験→結果→考察→結論の学習の流れで行う）事象や発問を工夫し、自力解決の場面を設定する。	・単元末ワークテストで知識・技能の正答率60%未満の児童を10%以内にする。 ・単元末ワークテストで思考・判断・表現の正答率60%未満の児童を10%以内にする。 ・7割の児童が、考察、結論の流れでノートに記述することができるようになる。
	思考力・判断力・表現力			
	学びに向かう力、人間性等			